たきかわ歴史年表

和暦		西暦	事 柄
	2	1869	蝦夷を北海道と改め、11国86郡に分ける
	5	1872	
	19	1886	上川仮道路(市来知~忠別太間)ができる
			上川道路改修、高畑利宜が空知太駅逓を開業する
	22	1889	十津川郷民632戸が空知太に到着
		1000	(このうち92戸が滝川屯田兵に応募し、滝川に入地)
			北海道庁令をもって滝川村が設置される
	23	1890	滝川村戸長役場が開庁
			屯田兵348戸入地、第一中隊、第二中隊を編成(440戸)
明			兵村に私立南・北小学校を開校
	24	1891	兵村でリンゴ植樹を始める
山	27	1894	江部乙屯田兵400戸が入地
治		1001	滝川北尋常高等小学校を開校
	28	1895	国木田独歩が三浦屋で休憩
		1898	空知太駅から旭川まで鉄道上川線開通
			空知太駅を移転、滝川駅とする
	31		江部乙駅が設置される
			石狩川・空知川氾濫、被害甚大
	25	1002	
	35		石狩川鉄橋ができる 曲数少会により、 注川毎年新規やウ
	39		農務省令により、滝川種牛牧場指定
	42		江部乙村分村
	43	_	滝川村が滝川町となる
大 正	2	1913	鉄道下富良野線開業
	3	1914	市街に初めて電灯がつく
	7	1918	農商務省滝川種羊場設置
	9	1920	庁立滝川中学校が開校
	13	1924	空知川堤防ができる
	9	1934	町立社会病院が開院
	14	1939	北海道人造石油(株)滝川工場竣工
	16	1941	人造石油工場のコークス炉火入れ、使用開始
			終 齢
	20	1945	人造石油生産停止、農地解放
	21	10/16	人石が滝川化学工業(株)となる
	27	_	滝川化学工業 (株) 倒産
	27		江部乙村が江部乙町となる
	30		陸上自衛隊駐屯、人口3万人を超える
	31		札幌〜滝川間鉄道複線化なる
和	33		滝川市となる
	37		北電(株)滝川火力発電所完成
	40	1965	
	46	1971	滝川市と江部乙町が合併、新「滝川市」に
	48	1973	市立滝川西高等学校開設
	40	15/3	文化センター、図書館が開館
	52	1977	郷土館開館
	55		空知川で「タキカワカイギュウ」の化石が発見される
	57		國學院女子短期大学が開校する
	60		滝川市生涯学習振興会が設立
平成	61		羊华百姓由韓 爾韓
			即前再開発ビルが完成 西有海川市が入る
	62	1987	実制自然史朗用館 駅前再開発ビルが完成、西友滝川店が入る NHK朝の連続テレビ小説「チョッちゃん」の滝川ロケ開始
	_	1301	
	63	1988	
	2	1990	
	3	1991	こども科学館オープン
			日本画家・岩橋英遠、文化勲章受章
		1996	道立花・野菜技術センター、開所式
		1330	市役所新庁舎開庁
	12	2000	
	15	2003	西友滝川店が撤退(17年間営業)
			新市立病院開院
	23	2011	市立図書館が市庁舎2階に移転開館
	25	2013	
	_		
	28	2016	滝川屯田兵文書が北海道有形指定文化財に指定





中川茶紙店(大正)



駄菓子屋(昭和)

滝川市郷土館は"たきかわ"に生きる人たちのこれま でのくらしぶり(歴史)や生活のしかた(民俗)を紹介する

博物館です。わたしたちの暮らしや生活の歩みを知る貴 重な資料やパネルがたくさん展示してあります。

"ふるさと・たきかわ"のさまざまな姿を知るために、 どうぞごゆっくりご観覧ください。

■利用案内

- ・開館期間 5月~9月
- ・開館 日 土曜日・日曜日・祝日 ·開館時間 12:00~16:00
- ・入館料 小中学生 50円 高校生 100円

150円 ※開館日以外の見学を希望される場合は下記問合先まで事前に ご相談ください。(月曜日・祝日の翌日は除く)

- ■滝川市郷土館 073-0033 北海道滝川市新町 3-8-20
- 〈問合先〉 滝川市美術自然史館 TEL0125-23-0502





滝川

TAKIKAWA Local History Museum

大むかしの たきかわ



滝川市内では石器や土器 など古代人の生活の跡がた くさん見つかっています。

縄文前期(約6.000年前) の朝日町Ⅰ遺跡ではこの地 域はサケ、鹿、どんぐりな どの自然の恵みが豊富な環 境であったことを示す十器 や石器が出土しました。

石狩川と空知川が合流する滝 川周辺はアイヌの人々に「ソラ プチ (=滝がごちゃごちゃ落ちて いる川=空知川) | 「プトゥ (= の川口) | と呼ばれていました。

幕末期の松浦武四郎らの探検 などで「ソラッチ・プトゥーが知 られ、その音から「空知太」の 字が当てられましたが、明治時 代にはその意味をとり「滝川」 の名称となりました。



松浦武四郎画 セッカウシ

農地をひらく

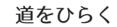
明治時代、北海道庁は石狩川 流域を調査し、開拓計画がたて られました。これに基づき、屯 田兵たちは暗い原始林を農地へ と切り拓いていきます。

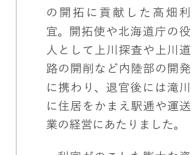
展示では入植期から昭和にかけての 農耕具ともに滝川のめん羊資料を展示。 滝川の開墾の歴史をご紹介します。

多くの囚人を犠牲とした明治 19 年からの北海道庁の「上川道路」 の開削によって北海道の内陸開拓 の端緒は開かれました。

その後、滝川には空知太駅逓や 上川鉄道の駅が設置され交通の 拠点となりました。

展示では道路にくわえて 渡船や鉄道など、交通・ 流通の変遷を示す資料を 紹介しています。





利宜がのこした膨大な資 料とともにその足跡をたど ります。



2階の「戦争とたきかわ」

小展示室では滝川における戦

争ごとの戦死者名を記したパ

ネルや戦争資料を展示してい

また、戦時体制下、軍用で

の利用を見据えて建設された北

海道人造石油(株) 滝川工場(石

炭から石油をつくる化学工場)

の歴史も紹介しています。

ます。

まちをひらく



交诵の要衝となった滝川は商業 が発展し、市街地を形成しました。

市街地の推移を文書資料や地図、 写真パネル、様々な生活の道具をま じえて紹介するとともに大正時代の 商家(中川茶紙店)を復元、当時主流で あった座売り商いの様子を伝えます。

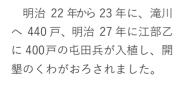




路地にあふれるように遊ん でいた昭和中期の子どもたち。 その社交場だった「駄菓子屋」 や当時の学校の教室風景を再 現し、昔のさまざまな玩具と ともに「こども文化」を紹介 しています。

メンコや輪なげなど昔の遊 びを体験できるコーナーもあ ります。





館内には柾ぶきの屋根に煙 出しがついた屯田兵の住まい の一部が再現されています。

